

1	審議会名	令和元年度 第2回安曇野市文化財保護審議会
2	日時	令和2年3月24日(火) 午後1時30分から3時30分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 306会議室
4	出席者	石田益雄、倉石あつ子、大澤慶哲、百瀬新治、梅干野成央
5	市側出席者	教育長 橋渡勝也、文化課長 那須野雅好、課長補佐兼文化財保護係長 山下泰永、 文化財保護係 土屋和章、横山幸子
6	公開・非公開の別	一部非公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	令和2年3月31日

1 開会

2 挨拶

教育長、会長より挨拶

3 諮問

(1)有形文化財候補「満願寺の古文書」の指定について

<教育長より文化財指定に係る諮問書の提出>

<事務局より「満願寺の古文書」の説明>

令和元年12月、申請者である満願寺から市へ古文書の寄託の依頼があった。寄託された古文書は全22点で、うち16点は戦国時代から江戸時代後期の、松本藩初期の状況を示す貴重な資料である。最も古いものは、戦国時代の弘治2年（1556）、火災にあった満願寺の復興のための資材を集める勸進帳である。その他、織田信長が出した満願寺での禁制や、小笠原貞慶をはじめとした松本城主、小笠原氏の家臣で豊科を支配した細萱氏の文書などが含まれる。中世から近世への移行期にあった安曇郡の歴史や、松本藩政初期の研究を進める上で貴重な文書である。以上のことから、22点のうち16点について、安曇野市教育委員会から市有形文化財指定の諮問を受けて今回審議を依頼するものである。

4 審議

<委員の意見>

今回諮問のあった16点に限らず、残りの6点を含めた22点全体が満願寺の歴史を示す文書である。満願寺と南安曇郡の歴史全体を捉えるため、22点一括で指定するのが適当である。

5 報告事項（公開）

(1)「安曇平のお船祭り」調査について

<事務局>

「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として「安曇平のお船祭り」が指定されたことを受け、平成29、30、31年度の3年をかけて調査を行い、今年度、報告書が完成した。新年度には、今後の保存継承、調査研究のため各所へ配布する。

（質問等なし）

(2) 民家調査の結果について

<事務局>

平成24～26年度に長野県建築士会安曇野支部に分布調査を依頼し、結果をもとに信州大学工学部に委託して、平成27～令和元年度に実施した詳細調査をまとめた。

<委員より補足>

市内の民家を20棟ほど調査した。安曇野の民家は本棟造とよく言われるが、本棟造のみではなく、茅葺や、本棟造に近いものなど多様性に富んでいる。主には民家の母屋に着目し、茅葺民家と本棟造も同様の考え方のもとに変遷してきている。集落は様々な要素とかがわりながら成立しているとも言える。

(質問等なし)

(3) 令和元年度の現状変更について

<事務局>

4件の文化財について現状変更が発生した。

No.1 安曇野市有形文化財 等々力家の古文書

所有者から安曇野市文書館へ寄贈され、所在地を所有者宅から文書館へ変更した。

No.2 長野県名勝 山口家庭園

庭園内の木造の太鼓橋が、シロアリ被害により崩落の危険性があったため、架け替え前の橋と同じクリ材で架け替えた。

No.3 安曇野市史跡 穂高古墳群F9号墳

例年実施している、國學院大學考古学研究室による発掘調査が実施された。F9号墳の調査は令和2年度まで継続する予定である。

No.4 安曇野市史跡 光城跡

史跡内で、桜の植樹に伴う、資材運搬のためのゴムクローラーの移動が計画された。ゴムクローラーの通行により、土塁や堀が損壊されないよう土嚢等で保護しながら実施した。

(質問等なし)

(4) 令和元年度事業報告

<事前配布資料の確認>

(質問等なし)

(5) 旧安楽寺大門のアカマツ枯損について

<事務局>

旧安楽寺大門に立ち、地域のシンボルとして親しまれてきたアカマツが枯れてしまった。土地は市有地のため、岩原区と市教育委員会で守ってきたが、令和元年秋ごろから一部が枯れ始め、年末に全体がほぼ枯れてしまった。倒木等の危険防止のため、令和2年3月9日に岩原区立会いのもと伐採した。

<委員より補足>

かつて六地藏が立っていた場所であり、「六地藏の松」として親しまれてきた。状態は悪かったが、年輪を確認したところ、樹齢210年程度と思われる。以前、枝を落とした跡に幼松が育っていたので、将来的に大門を象徴する松として成長することを期待している。

(その他質問等なし)

6 報告事項（非公開）

7 その他

連絡事項等なし

8 閉会